

# オンラインによる日本語教育実習の試み

——オンライン実習の可能性について——

平 田 歩

## 要 旨

キーワード：日本語教員養成課程 日本語教員 日本語教育実習 オンライン実習

## 1. はじめに

本稿は2021年8月に日本語教育実習の一部をオンラインで行った実践報告である。

梅光学院大学日本語教員養成課程では3、4年次のいずれかで「日本語教育実習Ⅰ」を受講し、その後学内で教壇実習を行うことを必修としている。従来、9月に来日する交換留学生に日本語を教授するという方法で一人あたり50分の実習を課してした。しかしコロナ禍の影響で交換留学生が来日できなくなり対面での実習の場を失ってしまった。通常、実習には5名以上の外国人学習者に対面で行うなどいくつかの条件がある。この事態に文化庁は「新型コロナウイルス感染症への対応」として教育実習にいくつかの緊急措置を認めるという指針を出した。この緊急措置の中には「教壇実習実施先が、遠隔教育（同時双方向性が確立している場合に限る。）による授業を円滑に行っている実績を有し、指導担当講師と教壇実習担当受講生、日本語学習者が同時双方向性を保った状態で教壇実習を行うことができる環境が整えられている場合、遠隔による教壇実習を認めることができるものとします。」という項目が挙げられている。つまり臨時的な措置ではあるが、条件が整えばオンラインでの実習も認めるということである。

そこでこの機会にオンライン授業の技術を学ぶという目的も含めオンライン実習を試みた。

## 2. オンライン実習の概要

- ①実習期間：2021年8月3日（火）～5日（水） 計3日間
- ②実習時間：日本時間 午前11時～11時45分（45分間）
- ③実習生：15名
- ④実習機関：ベトナム（ニャチャン）AMY Japanese Culture Hub
- ⑤学習者：18名（中級前期レベル）

⑥実習方法：Zoomを使用、教授方法は直接法

⑦その他：実習生1人と学習者3名～5名を1グループとする。

実習生は3日間入れ替わりだが、学習者は3日間同じメンバーとする。

実習生は口元が学習者に見えるよう、透明のフェイスマスクを使用する。

学習者は理系の大学を卒業後、高度人材として日本企業への就職を目指し日本語学習機関で1年～1年半程度、『まるごと 日本のことばと文化』（国際交流基金）で日本語を習得中である。また、パソコン機器の使用には慣れておりオンラインで授業を受けることに抵抗や負担はなかった。

日本とベトナムでは2時間の時差があるため、授業開始時間はベトナムに合わせ日本時間午前11時（ベトナム時間午前9時）とした。実習生は授業開始30分前に準備を始め、スムーズに授業の運営ができるよう授業の流れや機器操作の確認を行った。また、1つの教室に2名の実習生を配置し、間隔をあけることでハウリングが起らないよう対策も行った。

### 3. 実習に備えて

今回のオンライン実習は当初から計画していたものではなく、コロナ禍にある日本語学習者の支援する活動として急遽実現した。実習生は教壇実習と模擬授業、授業見学は実施していたものの、オンライン実習をするための模擬授業や授業見学は行っていない。また、準備期間が短く、実習生一人一人に細かく指導する時間が取れないことから授業案モデルは日本語教育実習の授業担当者である執筆者がアイデアを出し、それに実習生が工夫を加え自分なりの授業を構成するという方法で行った。（授業案モデル参照）

オンライン実習を行うにあたり学習者からは「話す練習がたくさんしたい」という要望があった。そこで学習者がこれまで使ってきた『まるごと 日本のことばと文化』（入門～初中級）で既習事項の確認を行い、オンライン上でどのような活動をすれば話す練習がたくさんできるかを考えた。そして「授業を進める上で注意すること」として以下の項目を挙げた。

- ・会話練習の時間がたくさんとれること。ただし、雑談ではなく授業に即した内容になっていること。
- ・授業の目標を忘れないこと。
- ・学習者の反応を見ながら授業を進めること。
- ・発音、滑らかさの練習を取り入れること。
- ・学習者の発話時間を意識すること。（発話する機会を公平に与えること）

- ・やさしい日本語を意識すること。
- ・授業の導入では既習事項や前日の復習を入れること。

教材は画面共有と Web カメラを使いパソコン画面に映して提示できるもので、会話練習として有効なものでなければならない。そして 45 分間飽きることなく新鮮な気持ちで積極的に授業に参加でき、集中できるような工夫も必要である。そこで、これらのことを考慮して 1 回の授業に 2 種類の活動を行うことにした。そしてそれぞれの活動を始める前に例を示し、練習をしてから活動に入ることで学習者がスムーズに参加できるように配慮をした。さらに今回の実習の内容は日頃の勉強に比べゲームの要素が強い活動であるため、授業にメリハリをつけることと、学習者に何を学習するのが明確に伝わるものにした。以下にその内容を示す。

- 1 日目：①福笑い ②漢字の解説
- 2 日目：①影絵クイズ ②間違い探し
- 3 日目：①4 コマまんが ②3 日間の感想とまとめ

#### 4. 実習の実際と教材の工夫と効果

今回の実習には執筆者の他、実習機関で日本からオンライン授業を行っている日本人指導者と現地で日本語を教授しているベトナム人日本語教師も参観した。実習中、参観者は各グループのブレイクアウトルームを移動しながら全ての授業を参観し、実習後にはフィードバックも受けた。

実習生は授業案モデルを元にレリアなどの準備や自分の授業展開に合わせた PPT を作成するなどの工夫をして実習に臨んだ。実習時間は 45 分であったが、どのグループも時間が余ることなく、むしろ時間が足りないという印象であった。今回は実習生 1 名につき 3～5 名の学習者を割り当てていたので学習者一人当たりの練習量は確保できていたが、これ以上の人数になるとオンラインでの会話練習は学習者に物足りなさを感じさせてしまうことが予想される。従ってオンライン実習を可能にするためには授業の内容によって学習者数を考慮する必要があるということが言えるのではないかと感じた。

今回の実習で行った活動の中で少し難易度の高かったものは 3 日目の「4 コマまんが」であった。4 コマの絵を見ながらまんがの展開を理解し、登場人物のセリフを考えるというものである。短時間で場面の展開だけを見てセリフを考えるというのは難しかったようだった。

実習 1 日目と 2 日目はゲームの要素を含む活動であり、絵や図などを共有しながら授業を進めた。既習事項の語彙、表現が使えるものを選び、共有する絵や図は分かりやすいものをフリー素材のイラストから選んだ。(教材資料参照)初めに例を示すことで活動はスムーズに進められ、

また学習者からも活発に発話があった。

実習生も学習者の立場に立って授業が円滑に進められるようレアリアなどの準備をした。日本に行かなくとも実物が見られるということは学習者には新鮮であり、オンライン実習の有効性が感じられた。

## 5. 実習生の感想より

実習生には授業後、感想を提出してもらった。以下にその一部を挙げる。

- ・想像していたよりもコミュニケーションが取れたので、とても面白くスムーズに授業を行うことができた。またマンガの中の何気ないイラストを、質問してくれたり、「先生はどうですか」と私にも聞いてくれたりなど、アクティブな授業をすることができた。実際に日本語を学んでいる学習者に対する話し方や接し方が経験出来たので、私の中ではとても納得がいく実習だった。
- ・学習者のみなさんがたくさん質問をしてくれたおかげで、より相互的な会話ができるようになった。発言が少ない人には「〇〇さんはどうですか？」などと、なるべく一つの話につき全員の意見が聞けるように心がけた。レアリアを見せるようにしたが、それに対する反応も良く、嬉しかった。ひとつ申し訳なかったことは、学習者の発音を上手く聞き取れずにこちらから聞き返すことが多かったり、それを理解しようとして考え込む瞬間があったりしたことだ。もう少しテンポ良く進行できるよう慣れていきたい。最後に感想を聞いた時、「先生の話はわかりやすかった。楽しかった」という言葉をもらえて本当に嬉しく、やりがいを感じた。
- ・日本語を教えることの難しさを改めて感じた。頭の中で「こう話す」と考えていても、いざ話そうとしたら「この言い方で伝わるのか？」と考えてしまったり、話したとしてもうまく相手に伝わらなかつたり等、とても苦労した。しかし、学習者もこちらの話を理解しようと一生懸命に取り組んでくれただけでなく、「ベトナムではこうですよ」と話の展開を広げるのも助けてくれた。ただ、最後感想を言う時に、「この三日間を通しての感想をお願いします。」と言ったのは失敗だったかなと思った。「印象に残っている活動はありますか?」「難しい活動はありましたか?」などと、もう少し具体例を提示していたら学習者を悩ませないですんだと思った。しかし、お互いに有意義な時間が過ごせたと思います。今回の活動を通して、日本語教育についてもっと学びたいと思った。

- ・今回のオンライン実習に参加をして、学習者の日本語学習に対する熱心に取り組む姿勢がとても新鮮で感動した。オンライン実習中、学習者は積極的に発言をし、真剣に私の話を聞いてくれた。実習前は学習者ときちんとコミュニケーションがとれるのか、しっかりと引っ張って授業が行えるのか不安しかなかった。しかし、学習者の雰囲気明るく、会話をたくさんすることができたのでとてもリラックスをして授業を行うことができた。授業の最後には「(授業が) 楽しかった」「まだ授業を続けて欲しい」と、喜びの声や授業が終わることを惜しむ声があり、とてもやりがいを感じた。人に喜ばれることをするのは大変だが、自分にとってとても成長を感じた。
- ・初めは上手く説明できるか不安だったが、学習者が一生懸命聞いてくれたので、とても楽しく実習をすることができた。4コマのイラストを見てセリフを考えるということが少し難しく感じている学習者もいた。そのため、その場合にはイラストの細かい部分に着目しながら、「この人は嬉しそうですか？悲しそうですか？」など質問をしながら、誘導しながら進める工夫をしました。3人の学習者の意見を上手く繋げながら、4コマを作ることを意識した。最後には、楽しく勉強できたと言ってもらえたので良かったと思う。

感想はどれも実習中のことが詳細に書かれていた。自分の問いかけや学習者からの言葉、想定外の質問、準備したレリアが役に立ったこと、失敗、反省などが多かった。さらに次に機会があれば、自分で授業案を考えたいということやこの実習を通して自分の成長が感じられたという言葉もあった。

実習生たちは2020年前期から大学の授業をオンラインで受けていたため機器の操作、画面共有などは身につけており、この点についての指導は必要なかった。各教室を見回りながら気づいたことは、実習生たちが対面で話す時よりも音声で明確に伝わるよう意識した話し方をしていたことである。また、語彙などがうまく伝わらないときに紙に手書きしたものをWebカメラに映して画面越し見せるなどの工夫もしていた。これらは実習生自身がオンライン授業を受けた経験に因るものではないと感じた。このことからパソコンなどの基本的な機器操作のスキルを実習生、学習者がともに身につけており、実習生自身にオンライン授業を受けた経験があればオンライン実習ができる可能性が広がると実感した。ただし、実習前にはオンライン授業の見学やオンライン授業を前提とした模擬授業、教材研究は不可欠である。

## 6. 今度の課題

日本語教員の資格はこれまで法に基づく資格ではなかったが「公認日本語教師」として国家資

格化されるという動きがある。これに先立ち、2019年6月には「日本語教育推進法」が可決され、初めて国が日本語教育に責任を示した。ますます教育実習の重要性が高まることになり、コロナ禍にあっても教育実習の場を確保しなければならない。

これまでは教育実習と言えば当然対面で行われるものと考えられてきたが、代替措置とはいえオンラインで実習をしたことによって日本語学習の広がり知り、実践的な経験ができたことは実習生にとって有意義であった。また海外で日本語を学ぶ学習者にとってもネイティブとの会話練習がオンラインでできたことは学習意欲の維持につながったのではないだろうか。今回の試みを通して教壇実習とは別にオンライン実習やそこで使う教材研究に取り組むことの意義を感じた。

#### 参考文献・資料

文化庁（2021）「文化庁届出受理日本語教師養成研修実施機関・団体における新型コロナウイルス感染症への対応について」

[https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo\\_nihongo/kyoiku/kyoin\\_kenshu/pdf/92968301\\_02.pdf](https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/kyoin_kenshu/pdf/92968301_02.pdf)

文化庁（2016）「法務省による日本語教育機関の告示基準の策定に伴う法務省告示日本語教育機関の教員の要件に該当する「日本語教育に関する課程」について（御連絡）」

[https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo\\_nihongo/kyoiku/kyoin\\_kenshu/pdf/yosei\\_katei\\_daigaku.pdf](https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/kyoin_kenshu/pdf/yosei_katei_daigaku.pdf)

伊東祐郎（2021）「コロナ禍におけるオンライン日本語教育実習」『国際教養大学専門職大学院グローバル・コミュニケーション実践研究科日本語教育実践領域実習論文報告集』12巻 pp.2-5

佐々木香代子（2021）「オンラインによる日本語教育実習」『琉球大学国際教育センター紀要』(5) pp.29-37

藤平愛美 他（2019）「日本語教育実習における遠隔授業見学の有効性と課題」『大阪大学日本語日本文化教育センター 授業研究』17 pp.29-47

授業案モデル（1日目）

	主な活動	備考
10:30	【準備開始】 注意！Zoomのカメラはミラー効果OFFにする。 *ブレイクアウトルームに入る	教材の確認 福笑い・パーツ Zoomに入る
11:00	【授業開始】 ○あいさつ（お互いに自己紹介） ○復習として既習事項を取り入れた会話をする	本日の活動紹介
11:10	○本日の活動 ①福笑い（ゲーム） ・ゲームの説明と練習 実習生は目隠しをし、学習者の指示に従って顔のパーツを福笑いに貼る。	福笑い（顔・パーツ） PPT 位置を示す語彙 *ボードに貼った福笑いを映す
11:30	②漢字の解説（クイズ） 絵の画面を見せて、漢字をイメージさせる。 ・例題で練習をする。 難しいものはヒントを与える。  ○グループ内で終わりのあいさつ	漢字あてクイズPPT *画面共有 漢字から意味をイメージさせる。ホワイトボード機能も適宜使用。
11:45	○ブレイクアウトルーム終了	

授業案モデル（2日目）

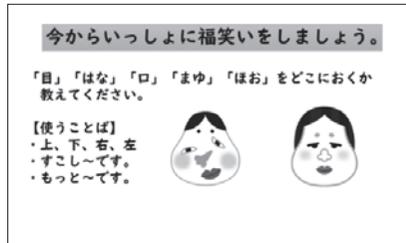
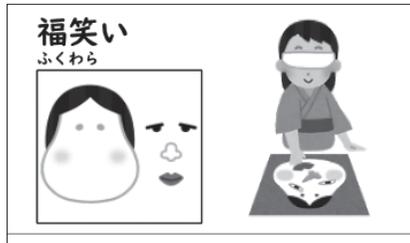
	主な活動	備考
10:30	【準備開始】 *ブレイクアウトルームに入る	教材の確認 Zoomに入る
11:00	【授業開始】 ○あいさつ（お互いに自己紹介） ○前日の復習	本日の活動紹介
11:10	○本日の活動 ①影絵クイズ シルエットを見せて何かをあててもらう ・例題で練習 T: さあ、これはなんでしょう？ S: ~だと思います。 T: そうですか、こたえは.....	影絵クイズPPT *画面共有
11:30	②間違い探し（クイズ） 同じような絵を2枚提示。どこが違うか探して説明してもらう。 ・例題で練習  T: どこがちがいますか？ S: ~がありません。 T: そうですね。他はどうですか？ もっとありますよ。 ○グループ内で終わりのあいさつ	影絵クイズPPT *画面共有
11:45	○ブレイクアウトルーム終了	

授業案モデル (3日目)

	主な活動	備考
10:30	【準備開始】 * ブレイクアウトルームに入る	教材の確認 Zoomに入る
11:00	【授業開始】 ○あいさつ (お互いに自己紹介) ○前日の復習	本日の活動紹介
11:10	○本日の活動 ① 4コマまんが (セリフを考えて会話) 例を1コマずつ見せながらマンガの展開を理解する。 そのあとで、本日のお題を提示。	4コマ漫画 (せりふなし) PPT (縦) * 画面共有
11:30	② 3日間の感想とまとめ 1人ずつに聞いてみる。 * 発言の時間を確保 ○グループ内で終わりのあいさつ	
11:45	○ブレイクアウトルーム終了	

教材資料

・福笑い



実習の様子

